

埼玉県営水道長期ビジョン レビュー(H27実施)結果概要

県営水道を取り巻く環境の変化や将来見通しなどの分析評価を実施しました。

県営水道を取り巻く環境の変化・将来見通し

より安全・安心で良質な水が供給されているか

原水の水質	水質は策定時と大きな変化はないが、水質事故は増加傾向にあり、ホルムアルデヒド前駆物質の流出事故により送水停止となる水質事故も発生した。
浄水の水質	給水量に占める県水の割合は若干増加しており(約76%→約78%)、県水は引き続き重要な給水源である。 水道水の味や臭いに不満を持っている人の割合は変わっていない(約3割)。

引き続き取り組む

- ・供給水質の向上
- ・水質管理体制の強化

将来も変わらず安定した事業運営ができるようになってきているか

老朽化施設と更新計画	浄水施設や管路の老朽化が進行、また水需要の減少傾向も続いている。
経営・財務状況	現在は料金回収率100%以上を維持しているが、今後の水需要が減少し給水収益が下がる見込。
技術力等の確保	職員の高齢化と30代以下の経験の乏しい若手職員が増加。
利用者サービス	利用者への情報提供を行っていく必要がある。

引き続き取り組む

- ・施設の計画的な更新と施設能力の最適化
- ・健全経営の維持・効率的な事業運営
- ・利用者サービスの向上

いつでも使えるように供給されているか

水需要と供給能力	策定時と変わらず水需要が減少し、今後も減少見込水源施設の完成年度が延期され、当面の間暫定水利権に依存する状態が続く。
危機管理対策の現状	地域防災計画において、今後30年以内に南関東地域でM7級の地震が発生する確率が70%と示された。ビジョン策定後計画停電は発生していないが、原発はほとんど再稼働しておらず、停電の可能性がある。

引き続き取り組む

- ・渇水対策の充実
- ・事故災害等の予防対策の充実
- ・事故災害等の応急対策の充実

環境への影響を低減しているか

環境対策	地盤沈下については、用水供給事業の効果で沈静化している。 CO2については、原子力発電所の停止により、CO2の原単位が上昇している。 浄水発生土についても、依然として有価販売が困難な状況である。
------	---

引き続き取り組む

- ・地盤沈下の防止
- ・CO2の削減・省エネ対策の推進
- ・浄水発生土の有効利用

国際協力に貢献しているか

海外技術協力	世界的にも7.5億人が依然として清浄な飲料水を確保することが出来ない。
--------	-------------------------------------

引き続き取り組む

- ・国際技術協力の充実
- ・水道の国際展開

厚生労働省「新水道ビジョン(H25.3改定)」

基本理念 地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道

理想像	安全	安心して飲める水道 適正な水質管理体制 総合的アプローチによる対応
	強靱	危機管理に対応できる水道 適切な施設更新、耐震化 被災してもしなやかに対応
	持続	国民から信頼され続ける水道 長期的に安定した事業基盤 人口減少社会を踏まえた対応 【環境対策】【国際協力】

県営水道の将来像

- より安全・安心で良質な水の供給
- 事故・災害に強い水道
- 運営基盤の強化
- 事業を通じた社会貢献
- 利用者サービスの向上

県営水道長期ビジョンと方向性は一致している

結果と今後の方向性

○県営水道を取り巻く環境・将来見通しは策定時と大きくは変わっていない

長期ビジョンの見直しは行わない